

みやぎ経済月報

(2005年4月)

平成17年4月25日

目	次
本県の経済概況	1
主な指標の動き	3
鉱工業生産指数	2月 3
大口電力使用量	2月 3
新設住宅着工戸数	2月 4
公共工事請負金額	3月 4
大型小売店販売額	2月 5
乗用車新車登録台数	2月 5
消費者物価指数	3月 6
求人倍率	2月 6
所定外労働時間	2月 7
実質賃金指数	2月 7
企業倒産	3月 7
宮城県景気動向指数(概要)	8
全国・東北等の景況	9
主要経済指標	12
平成16年の宮城県の経済動向	27

利用される方に

この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料及び当該機関の刊行した統計資料等によったもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合があります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

統計表の符号は次のとおりです。

- 「 」 …… 負数
- 「…」 …… 数字が得られないもの
- 「-」 …… 該当数字がないもの
- 「p」 …… 速報値または暫定値

内容についてのご照会、ご意見は、
宮城県企画部統計課(分析所得班)
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022-211-2453(直通)
にご連絡下さい。

本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

(数値等の変更について)

宮城県の所定外労働時間、実質賃金指数の前年同月比は、H16年までは旧産業分類による比較となっております。H17年1月からは、新産業分類による比較となっておりますので、ご利用の際には注意願います。

宮城県統計課ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/toukei/>

本県の経済概況

(下線部は前月からの主要変化部分。 は変化方向)

2月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種ではなお高水準の生産となっているが、基調としては横ばいの動きが続いている。住宅投資は低調に推移しているものの底入れの動きがみられる。公共投資は依然として低調である。個人消費も低調に推移している。一方、雇用は緩やかに改善の動きが続いており、企業倒産は、件数、負債総額ともに減少した。

このように、景気は全体として緩やかな持ち直しの動きに依然として一服感がみられる。 →

[前月の概況]

1月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種で高水準の生産となっているが、基調としては横ばいの動きとなっている。住宅投資は足もとで動きがみられるが、公共投資ともに全体として低調である。個人消費も一部で動きがみられるが、低調に推移している。一方、雇用は緩やかに改善の動きが続いており、企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に減少した。

このように、景気は全体として緩やかな持ち直しの動きに一服感がみられる。 →

→ は月の変化方向

生産

鉱工業生産指数(2月)は、前年同月比が4か月連続の上昇となった。前月比は、2か月ぶりの低下となった。大口電力使用量は、前年同月比が14か月ぶりに減少となった。

住宅投資

新設住宅着工戸数(2月)は、前年同月比が分譲住宅で4か月連続の増加、持家で2か月連続の増加となった。貸家は2か月ぶりに増加となった。

全体では、3か月連続の増加となった。

公共投資

公共工事請負金額(3月)は、前年同月比が国、県、市町村ともに4か月連続で減少となった。

全体でも4か月連続の減少となった。

大型小売店

大型小売店販売額(2月、百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同月比が12か月連続の減少となった。スーパーは前年同月比が29か月連続の減少となった。

自動車

乗用車新車登録台数(2月・普通自動車、小型自動車の登録台数の合計)は、前年同月比が2か月連続の減少となった。軽自動車届出台数(2月)は前年同月比が2か月ぶりに減少となった。

物 価

仙台市消費者物価指数(3月)は、生鮮食品を除く総合指数は、前年同月比が14か月連続の低下となった。総合指数は、前年同月比が4か月連続の低下となった。

雇 用

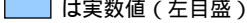

求人倍率(2月)は、有効は2か月連続の上昇となった。新規は2か月連続の上昇となった。所定外労働時間(製造業)は、前年同月比が減少となった。実質賃金指数(同)も、低下となった。

企業倒産

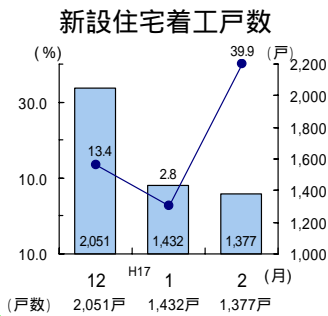
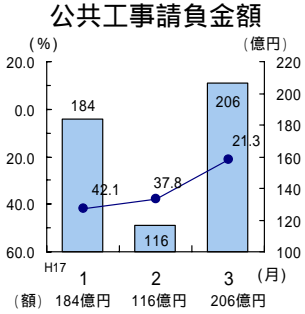
企業倒産(3月)は、件数、負債総額ともに前年同月比が2か月連続の減少となった。

特別保証制度利用の倒産件数の構成比は2か月連続の減少となった。

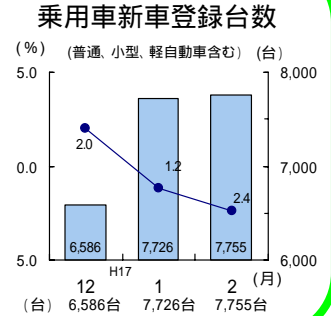
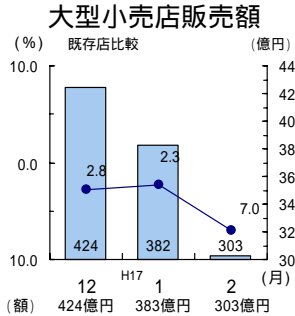
直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

については、前月差
 は実数値(左目盛)
 は前年同月比の推移(右目盛)

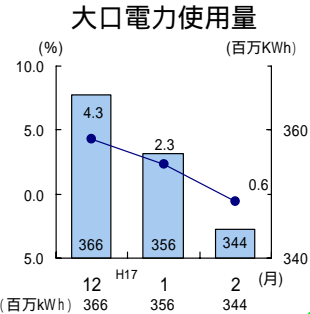
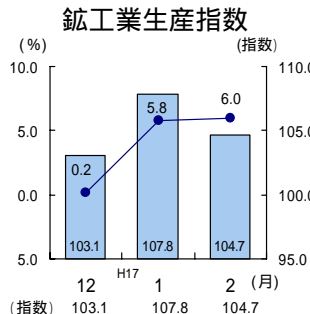
投資



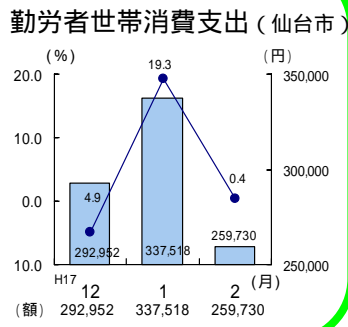
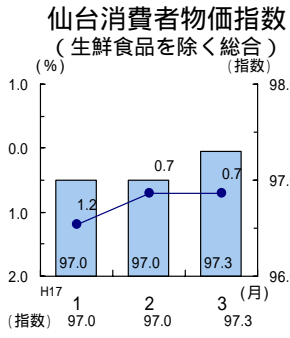
消費



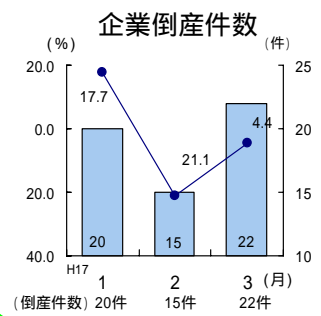
生産



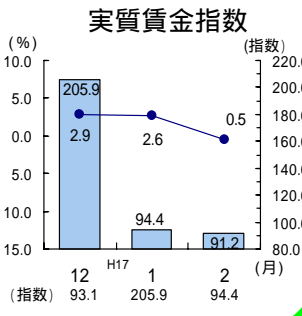
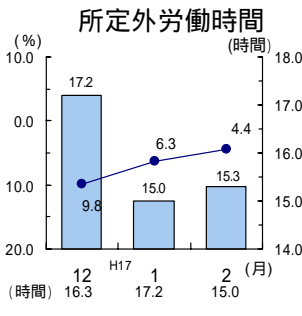
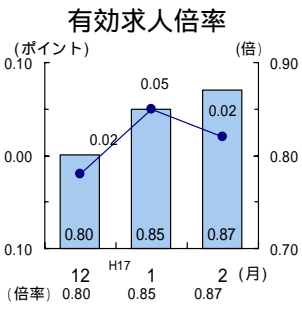
家計



企業倒産



雇用



主な指標の動き

1 生産

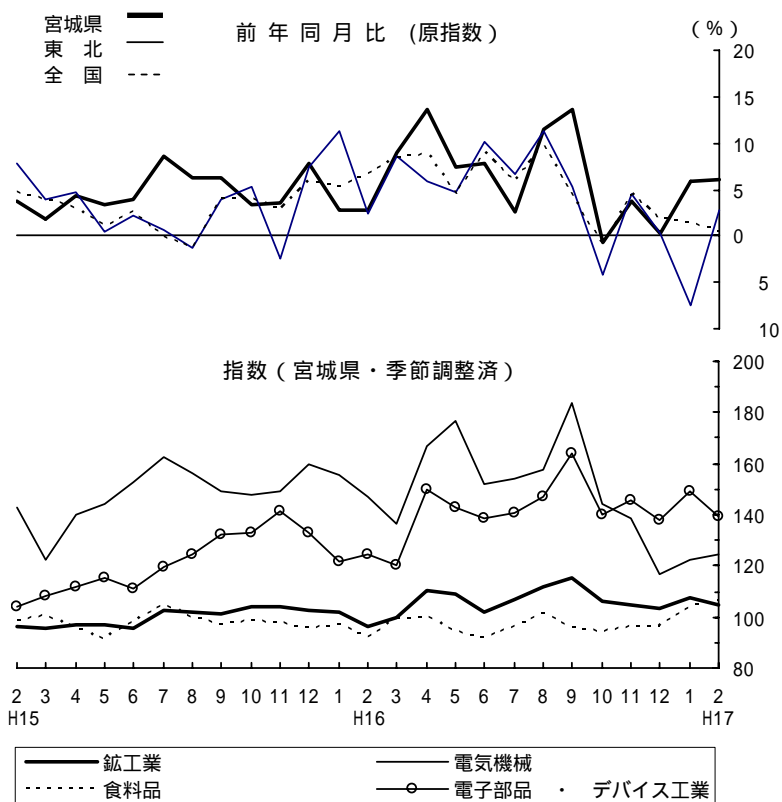
(1) 鉱工業生産指数

2月の鉱工業生産指数(季節調整値、平成12年=100)は104.7(速報値)で、前年同月比(原指数比較)6.0%の上昇となり、4か月連続の上昇となった。業種別の前年同月比をみると、精密機械工業、電子部品・デバイス工業、食料品工業など9業種が上昇となった。

一方、電気機械工業、情報通信機械工業など10業種が低下となった。

なお、前月比は2.9%と2か月ぶりに低下となった。

(資料：県統計課)

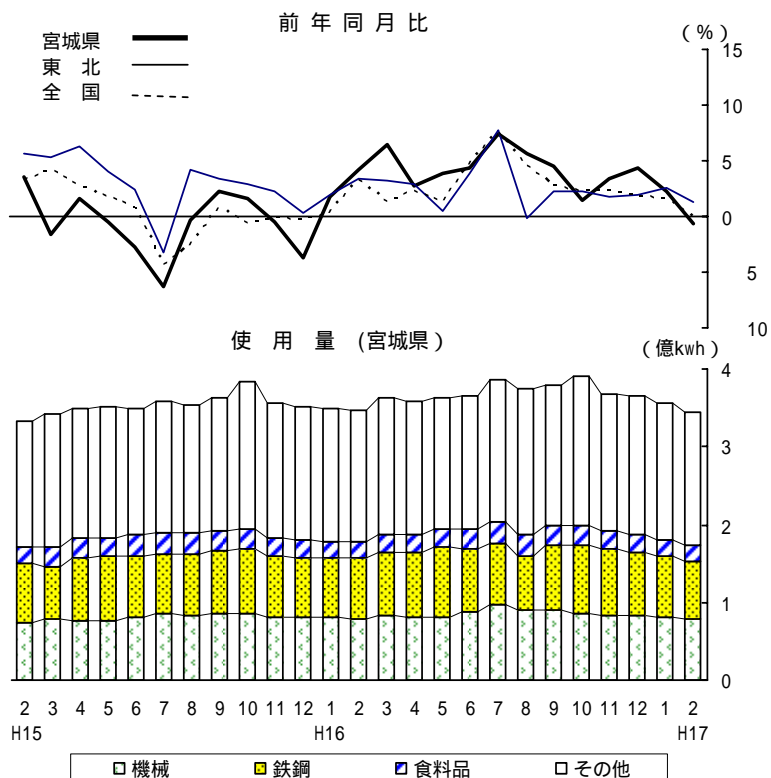


(2) 大口電力使用量

2月の大口電力使用量(契約電力500kw以上)は3億4,444万kWhで、前年同月比0.6%の減少となり、14か月ぶりに減少となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると、機械分野は0.4%の減少となり、15か月ぶりに減少となった。鉄鋼分野は5.7%の減少となり、6か月ぶりに減少となった。食料品分野は2.5%の増加となり、4か月連続の増加となった。

(資料：東北電力(株))



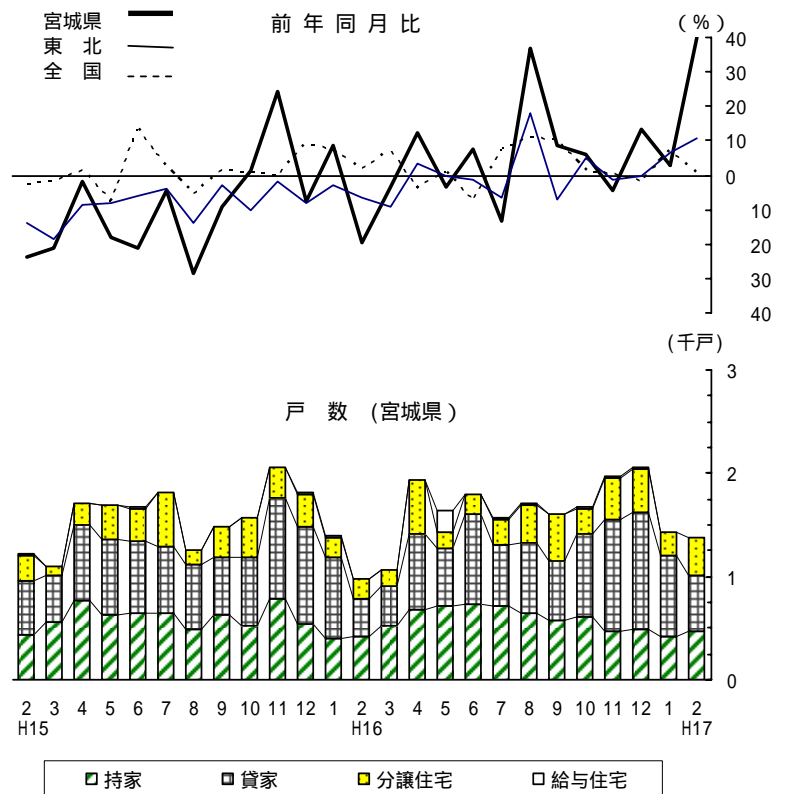
2 投 資

(1) 新設住宅着工戸数

2月の新設住宅着工戸数は1,377戸で、前年同月比39.9%の増加となり、3か月連続の増加となった。

利用関係別に前年同月比をみると、分譲住宅は91.1%の増加となり、4か月連続の増加となった。貸家は45.2%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。持家は12.0%の増加となり、2か月連続の増加となった。

(資料：国土交通省)

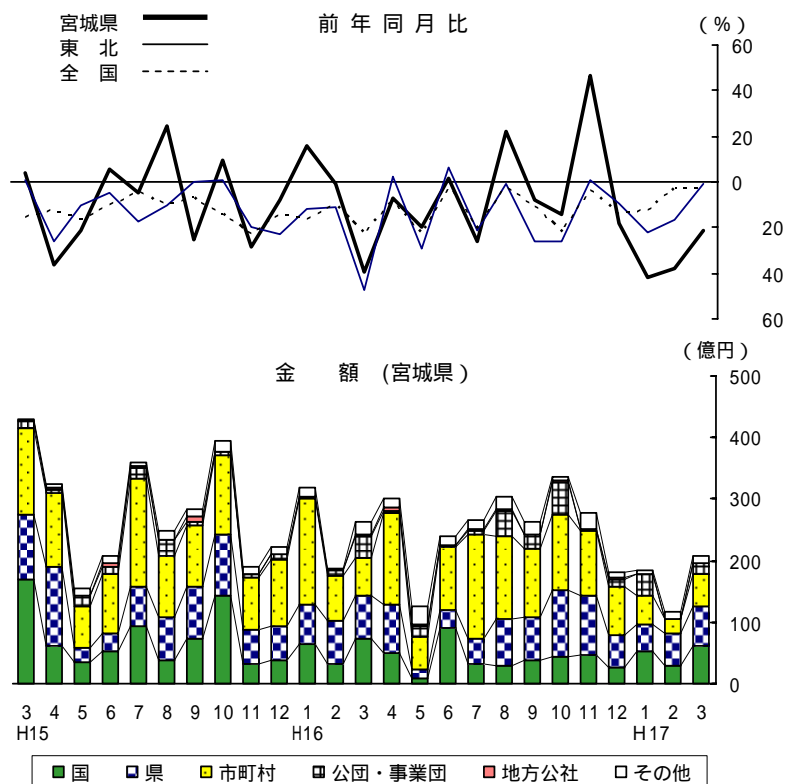


(2) 公共工事請負金額

3月の公共工事請負金額は206億2,800万円で、前年同月比21.3%の大幅な減少となり、4か月連続の減少となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は17.8%、県は5.1%、市町村は18.0%とそれぞれ減少し、ともに4か月連続の減少となった。

(資料：東日本建設業保証(株))



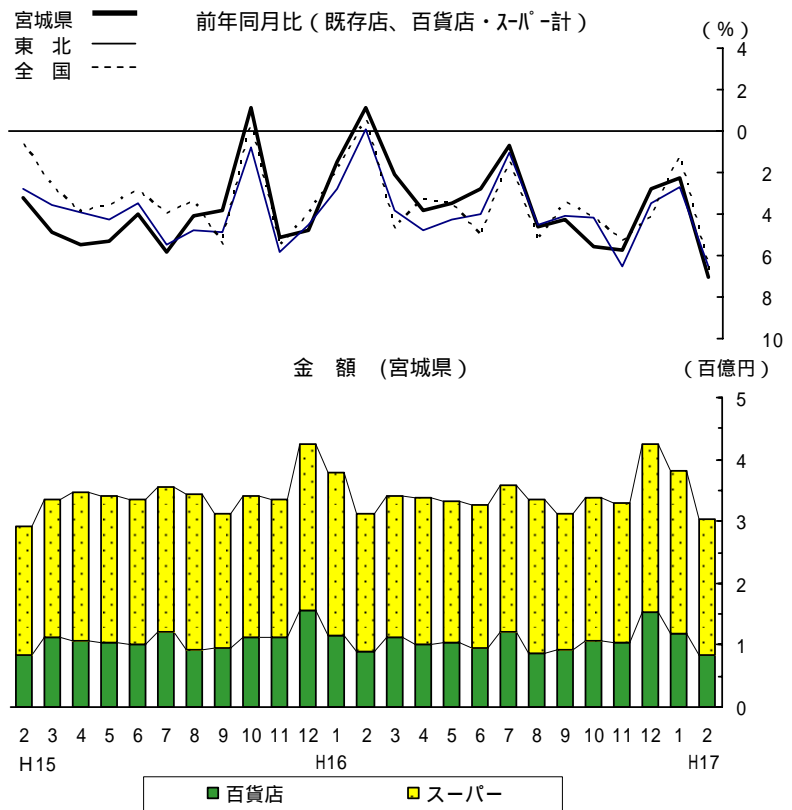
3 消 費

(1) 大型小売店販売額

2月の大型小売店販売額（百貨店・スーパーの売上総額）は302億8,200万円で、前年同月比（店舗調整値＝既存店比較）7.0%の減少となり、12か月連続の減少となった。

業態別に前年同月比（同）をみると、百貨店が8.2%の減少となった。スーパーは6.5%の減少となり、29か月連続の減少となった。

（資料：東北経済産業局）



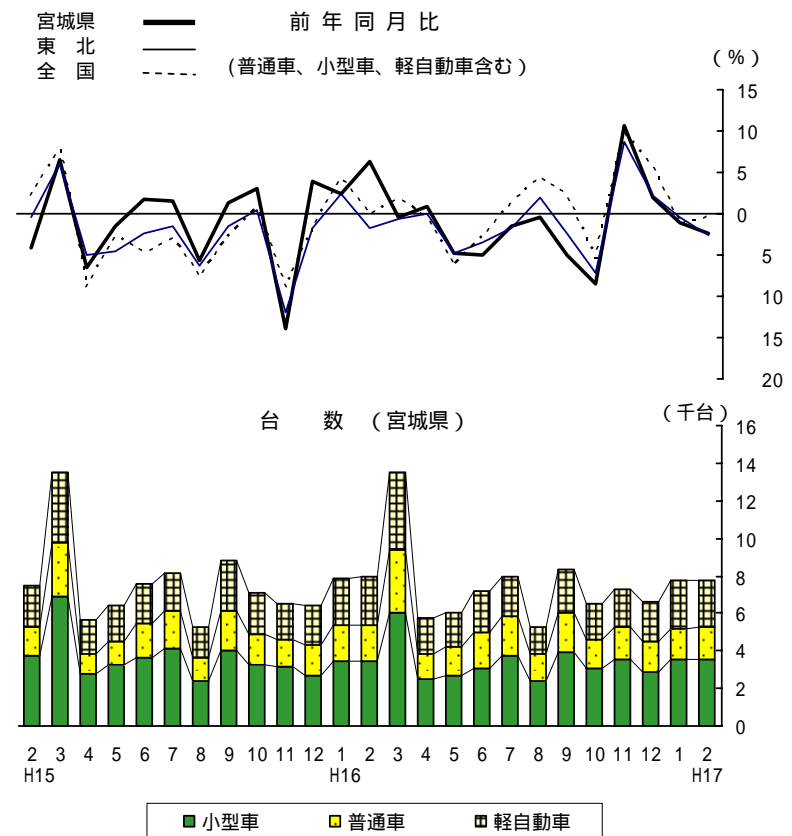
(2) 乗用車新車登録台数

2月の乗用車新車登録・届出台数（普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計）は7,755台で、前年同月比2.4%の減少となり、2か月連続の減少となった。

車種別に前年同月比をみると、小型車（排気量2,000cc以下）は2.8%の増加となり、4か月連続の増加となった。普通車（排気量2,000cc超）は12.1%の大幅な減少となり、2か月連続の減少となった。

軽自動車は、前年同月比2.0%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。

（資料：自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車連合会）

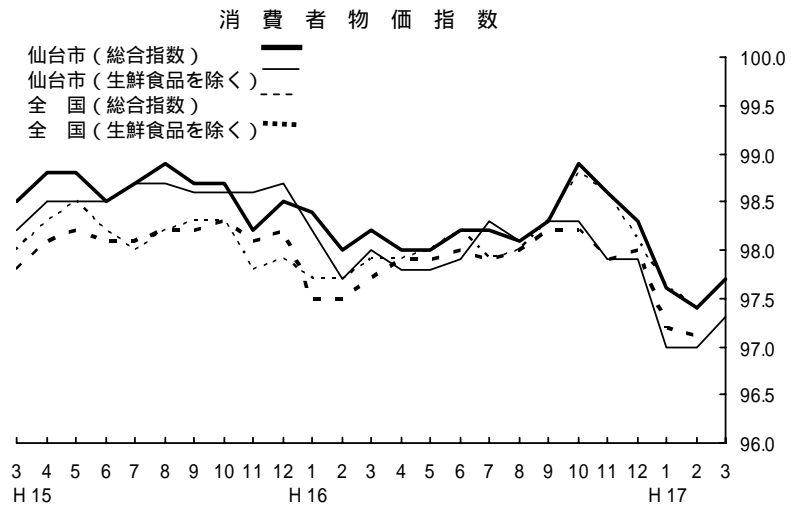


4 物 価

3月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成12年=100、中旬速報値)は97.3で、前年同月比0.7%の低下となり、14か月連続の低下となった。また、前月比は0.3%の上昇となり、6か月ぶりに上昇となった。

総合指数(同)は97.7で、前年同月比0.5%の低下となり、4か月連続の低下となった。また、前月比は0.3%の上昇となり、5か月ぶりに上昇となった。

(資料:県統計課)



5 雇 用

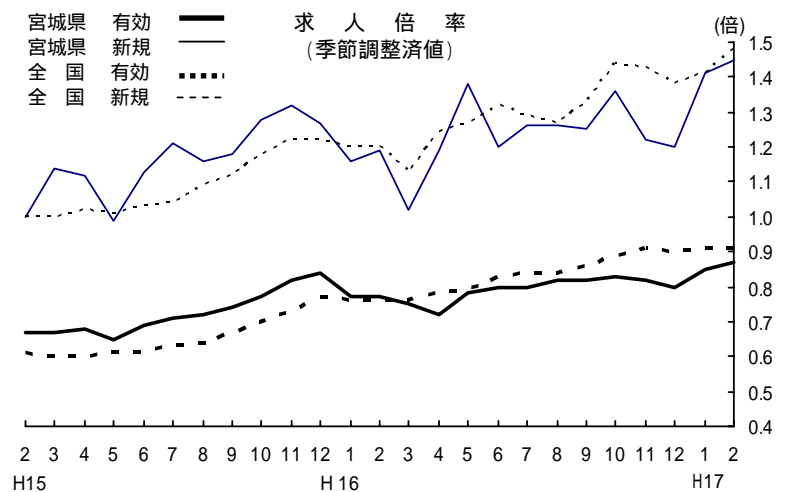
(1) 求人倍率

2月の有効求人倍率(求人数/求職者数、季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は0.87倍で、前月を0.02ポイント上回り、2か月連続の上昇となった。新規求人倍率(同)は1.45倍で、前月を0.04ポイント上回り、2か月連続の上昇となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効が前年同月比9.4%の増加となり、10か月連続の増加となった。新規は前年同月比9.8%の増加となり、2か月連続の増加となった。

なお、産業別の新規求人数(一般)では製造業が11か月ぶりに増加となった。

(資料:宮城労働局)

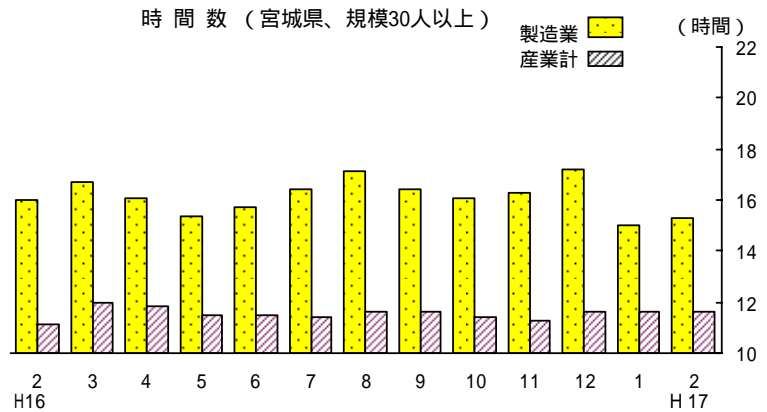


(2) 所定外労働時間

2月の所定外労働時間（製造業、事業所規模30人以上、1人月平均）は15.3時間で、前年同月比4.4%の低下となった。

調査産業全体（事業所規模30人以上、1人月平均）では所定外労働時間は11.6時間で、前年同月比4.5%の上昇となった。

（資料：県統計課）

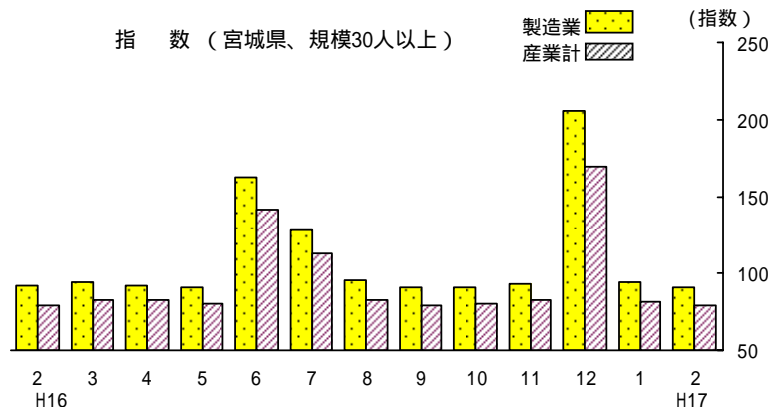


(3) 実質賃金指数

2月の実質賃金指数（平成12年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模30人以上）は91.2で、前年同月比0.5%の低下となった。

調査産業全体では79.5で、前年同月比0.3%の低下となった。

（資料：県統計課）

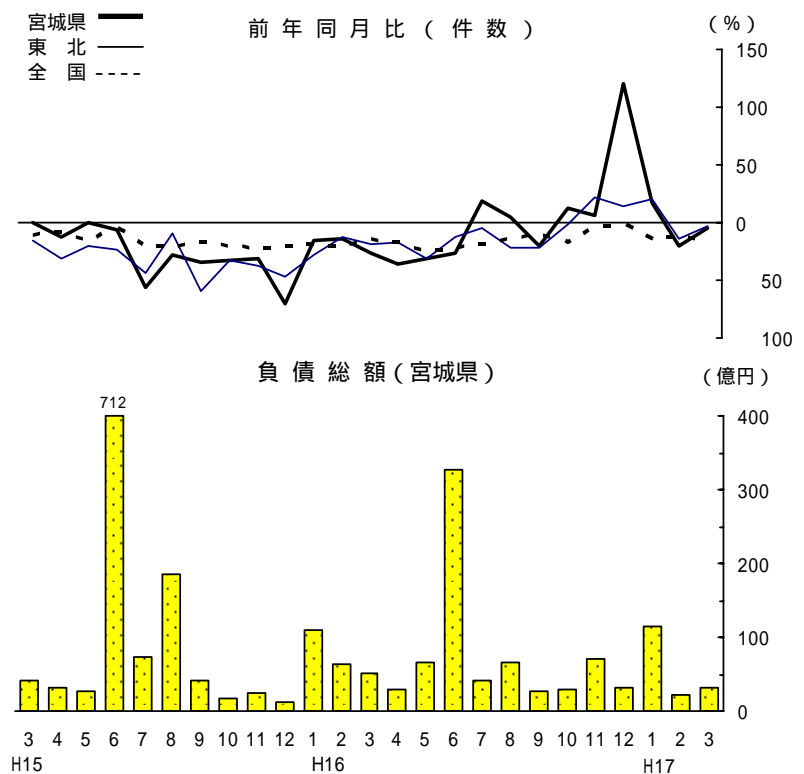


6 企業倒産

3月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は22件で、前年同月比4.4%の減少となり、2か月連続の減少となった。負債総額は32億8,100万円で、前年同月比36.7%の大幅な減少となり、2か月連続の減少となった。なお、大型倒産（負債総額10億円以上）は2か月連続で発生しなかった。

また、中小企業金融安定化特別保証制度利用企業の倒産は3件で、倒産件数全体に占める割合が13.6%となり2か月連続の低下となった。

（資料：株東京商工リサーチ）



全国・東北等の景況

(下線部は前月からの主要変化部分。 は変化方向)

1 全国の景況

月例経済報告(内閣府)

4月13日

[<http://www.cao.go.jp/>]

景気は、一部に弱い動きが続いており、回復が緩やかになっている。

- ・企業収益は改善し、設備投資は緩やかに増加している。
- ・個人消費は、持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。
- ・輸出は弱含み、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが持続しており、世界経済の着実な回復に伴って、景気回復は底堅く推移すると見込まれる。一方、情報化関連分野で見られる在庫調整の動きや原油価格の動向等には留意する必要がある。

3/16 景気は、一部に弱い動きが続いており、回復が緩やかになっている。

- ・企業収益は改善し、設備投資は緩やかに増加している。
- ・個人消費は、おおむね横ばいとなっている。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。
- ・輸出は弱含み、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが持続しており、世界経済の着実な回復に伴って、景気回復は底堅く推移すると見込まれる。一方、情報化関連分野で見られる在庫調整の動きや原油価格の動向等には留意する必要がある。

金融経済月報(日本銀行)

4月7日

[<http://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、IT関連分野における調整の動きを伴いつつも、基調としては回復を続けている。

輸出は持ち直しつつあるが、IT関連分野の在庫調整が続いていることなどから、生産は横ばい圏内の動きとなっており、企業の業況感にはやや慎重さがうかがえる。一方、設備投資をみると、企業収益が改善基調を維持するもとで、製造業を中心に増加傾向にある。

また、雇用面での改善傾向が続き、雇用者所得も下げ止まりが明確になる中で、個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移しており、公共投資は基調としては減少傾向にある。

3/16 わが国の景気は、IT関連分野における調整の動きを伴いつつも、基調としては回復を続けている。輸出は持ち直しつつあるが、IT関連分野の在庫調整が続いていることなどから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。一方、設備投資をみると、企業収益が改善基調を維持するもとで、製造業を中心に増加傾向にある。

また、雇用面での改善傾向が続き、雇用者所得も下げ止まりが明確になる中で、個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移しており、公共投資は減少傾向にある。

2 東北の景況

東北経済産業局管内の経済動向(東北経済産業局) 4月20日

[<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

- ・鉱工業生産は、横ばい傾向で推移している。
- ・個人消費は、全体として弱含んでいる。
- ・住宅着工戸数は、基調としては低調であるが、下げ止まりの動きがみられるが。
- ・公共投資は、引き続き低調な動きとなっている。
- ・設備投資は、電気機械を中心とした製造業の一部に積極的な投資の動きがみられる。
- ・雇用は、改善の動きがみられるが、依然として厳しさが残っている。

・企業倒産は、件数、負債総額ともに前年を下回り、小康状態を保っている。

管内の景気動向は、公共投資は引き続き低調であり、個人消費も全体として弱含んでいる。一方、住宅着工は下げ止まりの動き、設備投資の一部に明るい動き、雇用にも改善の動きがみられるものの、鉱工業生産はこのところ横ばい傾向で推移している。

このように、全体としては緩やかな持ち直しの動きに一服感がみられている。

3/16 管内の景気動向は、住宅着工は下げ止まりの動きがみられるが低調、公共投資は引き続き低調であり、個人消費も全体として弱含んでいる。一方、設備投資の一部に明るい動き、雇用にも改善の動きがみられるものの、鉱工業生産はこのところ横ばい傾向で推移している。

このように、全体としては緩やかな持ち直しの動きに一服感がみられている。

管内の金融経済概況（日本銀行仙台支店） 4月1日

[<http://www3.boj.or.jp/sendai/index.html>]

管内（宮城、岩手、山形）経済は、IT関連分野の在庫調整が尾を引いていることなどから、足踏み状態が続いており、企業マインドも足もとと製造業を中心に悪化している。もっとも、先行き在庫調整一巡後の持ち直しへの期待感も根強く、2005年度は設備投資が引き続き高水準な計画にあるほか、企業収益も下期を中心に回復を予想している。

この間、東北楽天ゴールデンイーグルスの始動や「義経」効果に伴う地域経済への好影響が徐々に浸透しつつある。また、金融面では平静な状況でペイオフ全面解禁を迎えた。

3/2 管内経済は、足踏みの状態が続いている。一段の下振れ懸念は薄れてきている。すなわち、生産は、IT関連分野で在庫調整圧力から操業度が低下した後、概ね横ばい圏内の動きが続いている。もっとも、IT関連における先行き不透明感はお拭えないものの、在庫調整圧力は徐々に和らぎつつあるとの見方が増えている。一方、住宅投資は横ばい圏内で推移しているほか、公共投資は引き続き低調に推移している。個人消費は家計所得面に捗々しい改善がみられない中、業態や品目などに格差を伴いつつ一進一退の動きを続けている。

この間、自動車関連部品メーカーで生産能力増強等へ乗り出す動きが徐々にみられ始めているほか、大河ドラマ「義経」やプロ野球新球団誕生などに関わるビジネスの動きが観光関連業界を中心に強まるなど、地域にもたらされたメリットを活用しようとする前向きな動きが広がりを見せている。

3 宮城の景況

県内景気の動き（七十七銀行） 4月19日

[<http://www.77bank.co.jp>]

2月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、持ち直しの動きが鈍化しており、やや足踏み感がうかがわれるものとなっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に弱い動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。公共投資は引き続き低調に推移しており、住宅投資はやや上向きの動きがみられるが、概ね横ばい圏内の動きとなっている。また、雇用情勢は、なお厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

3/22 1月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、持ち直しの動きが鈍化しており、やや足踏み感がうかがわれるものとなっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に弱い動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。公共投資は引き続き低調に推移しており、住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。また、雇用情勢は、なお厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる。